

研究主題

自ら課題を見付け、自ら解決することができる児童の育成

～ICTを活用した個別最適化された教科学習～

I 研究主題について

1 主題設定の理由

(1) 本校児童の実態

本校には、素直で素朴であり、教師の話を一生懸命聞くことができる児童が多い。しかし、学習に対して苦手意識が強く、どう学習したらよいか分からないために、学習に取り組む前から諦めてしまう児童が少なくない。また、学校に足が向かず、休みがちになってしまう児童の姿も見られ、みんなと同じように与えられた課題を前向きに取り組む姿はあまり見られない。

(2) これまでの研究から

本校は、平成29年度から「ともに考え ともに高める」を研究主題として、なかまなビジョンを主軸にし、努力点研究に取り組んできた。1年次(平成29年度)は、サブテーマを「主体的に学習に取り組む児童の育成」とし、児童が自分の考えをしっかりとつとめることができる授業づくりに重点を置いて実践を行った。2年次(平成30年度)は、サブテーマを「なかまとの対話を大切にすること」とし、対話する場を学習活動の流れの中に設定して実践を行ったことで、児童は、仲間との対話を通して考えを深めることができるようになった。3年次(令和元年度)は、サブテーマを「対話を通して考えをまとめ振り返る」とし、対話に参加しやすくするための手立てを工夫して実践を行ったことで、児童は、仲間の考えを踏まえて、自分の考えをまとめることができるようになった。4年次(令和2年度)は、サブテーマを「教材との出合わせ方や主発問の工夫を生かして」とし、これまでの手立てを取り入れつつ、導入の場面に重点を置いて実践を行った。児童は、解決すべき課題を自分事として捉えることができるようになったり、自分の考えを明確にした上で進んで対話し、仲間の考えを踏まえて自分の考えをまとめたりすることができるようになった。

本年度は、タブレット活用が始まる年であるため、デジタル教科書とタブレットを活用して、個別最適化された学びの提供を手立ての主軸として教科学習を行う。そうすることで、自ら課題を見付け、自ら解決することができる児童を育成していきたい。

目指す児童の姿	
1・2年生	提示された課題に合う解決の方法を知り、活用することができる。
3・4年生	提示された教材から課題を選び、解決の見通しをもつことができる。
5・6年生	提示された教材から課題を見付け、見通しをもって解決することができる。

※ 児童個人の実態に合わせ、目指す姿は変動してもよい。

II 研究の内容

1 努力点研究の目的

- ・ 授業研究を通して、児童の学力を向上させる。
- ・ 校内研究を通して、教師の授業力向上を図る。

2 授業実践の実施

実践は、以下の二つに分類される。授業者は、二つから、一つ以上選んで実践を行う。

(1) デジタル教科書（デジタル教材）を活用した授業

指導者用タブレットには、デジタル教科書をインストールすることができる。一斉学習の場面での活用として、イメージしやすい教材を提示することで、子どもが課題を見付けたり、見通しをもったりすることができるようになることを考える。

※ たんぽぽ・さくら学級については、同一のデジタル教科書を使った一斉指導は難しいため、その他のデジタル教材を使ってもよいこととする。

(2) 1人1台タブレットを活用した習熟授業（導入後の実践）

一人一人の学習状況に応じた個別学習や個別に行う調べ学習などの場面で、タブレットを用いて学習させることで、支援が必要な児童には基礎的な内容を重点的に指導し、十分に理解が進んでいる児童には、進度を助言しながら、習熟を図ったり、発展的な学習内容に取り組んだりさせる。授業の中で得た「個別最適化な学び」の成果を学級内で友達と学び合うことで、よりよい学びを生み出して「協働的な学び」として還元し、「個別最適化な学び」と「協働的な学び」を一体的に進めることができると考える。

III 研究の方法

1 授業実践

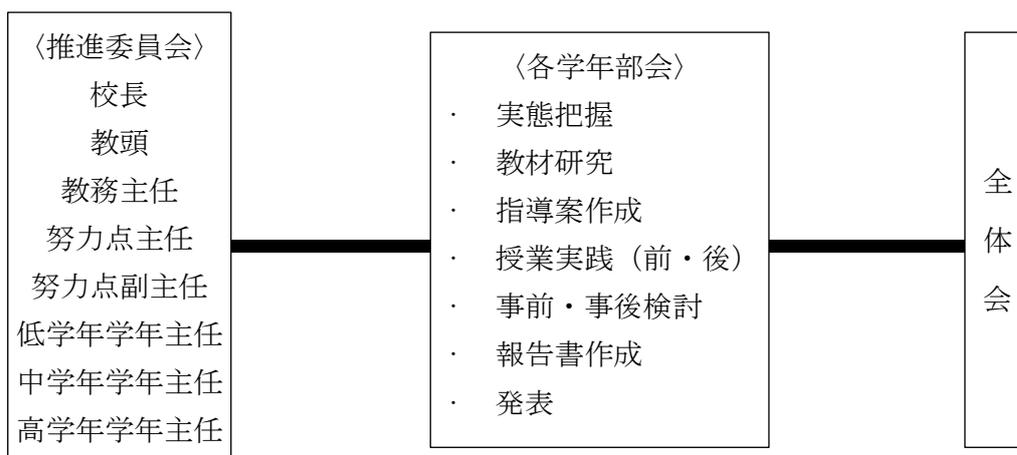
(1) 授業実践

- ・ 一人一実践を行う。
- ・ 指導案（略案でもよい）を作成し、全職員に3日前までに配付する。
- ・ 事前・事後検討会については、学年内で行う。また、事後検討会については、同学年以外の参観者にも、個別で講評をもらう。
- ・ 算数科、理科（3～6年）、社会科（5・6年）から学年で選択して行う。
- ・ 学年内で、前後期に半数に分かれて行う。（前期）5月～7月、（後期）9月～12月）
- ・ 学年内で、実践内容（2の(1)と(2)）を均等に分ける必要はないが、成果と課題を生かして次の実践を行うようにする。
- ・ 5月18日（火）までに、実践の時期と単元を決定する。
- ・ 同じ単元で実践を行ってもよいが、本時の内容は異なるものにする。
- ・ 指導者用タブレット、児童用タブレット等のICT機器を活用する。
- ・ ICT機器を活用したことによる、児童の変化を振り返るようにする。
- ・ 他学年の実践も積極的に参観する。

(2) 全体授業

- ・ 学校全体で一人、実践を行う。（10月28日（木）3限）
- ・ 指導案（略案でもよい）を作成し、全職員に3日前までに配付する。
- ・ 事前・事後検討会については、全体会で行う。

2 研究推進組織



- ・ タブレットやデジタル教科書等の基本的な使い方や活用方法は、情報部会で伝達していく。
- ・ 各学年の情報担当が、学年内のタブレットを整備し、学年内での指導法の共有を中心となって行う。

<推進委員会>

- ・ 努力点基本方針を確立する。
- ・ 各学年でテーマに迫る手立てを考える。
- ・ 実践上の問題把握と解決方法の検討をする。
- ・ 各学年の実践状況を相互に把握する。
- ・ 次年度の努力点基本方針を計画する。

<学年部会>

- ・ 実践する教科を決定し、教材研究をする。
- ・ 情報部会での提案内容を共通理解する。
- ・ 実践の事前・事後検討会を行う。
- ・ 中間・最終報告書を作成する。

<全体会>

- ・ 努力点基本方針を共通理解する。
- ・ 各学年の前期実践の様子を踏まえ、代表授業の検討をする。
- ・ 代表授業について、成果と課題を把握する。
- ・ 中間・最終報告会で、実践の成果と課題を把握する。

3 研究推進計画

実践	月	日	内容
前期	4月	8(木)	① 推進委員会(研究主題、研究の方法について検討) 学年部会→代表授業者の決定
	5月	10日(月)	② 全体会(研究主題、方法について提案、実践教科・時期の決定) ※教科・時期の報告は18日(火)まで
	6月	3日(木)	③ 学年部会(教材研究、情報部会での提案内容の伝達)
	7月	5日(月)	④ 学年部会(教材研究)★
後期	9月	1日(水)	中間報告書提出日
		2日(木)	中間報告書の配付
		6日(月)	⑤ 全体会(報告会「前期実践を振り返って」) + 学年部会(教材研究)
	10月	7日(木)	⑥ 全体会(全体授業事前検討会)
		28日(木)	全体授業(3限) ⑦ 全体会(全体授業事後検討会)
	11月	18日(木)	⑧ 学年部会(教材研究)★
	12月	2日(木)	⑨ 学年部会(教材研究)★
	1月	7日(金)	最終報告書提出日
		11日(火)	最終報告書の配付
		13日(木)	⑩ 全体会(報告会「一年間の実践を振り返って」)
	3月	10日(木)	⑪ 推進委員会(次年度の実践に向けて検討)

※ ★の日は、学年部会の前に、10～15分程度の校内研修を行う。

※ 『中間報告書』では、前期実践の内容と成果、後期実践への課題について学年で1ページ以上(A4)にまとめる。

※ 『最終報告書』では、後期実践の内容と成果、年間の振り返りについて学年で1ページ以上(A4)にまとめる。